

CELLISSIMO

<http://kobe-cello.com>



CELLISSIMO
GRANDIOSO



1000人のチェロ

中越地震復興支援 チャリティーコンサートSPECIAL

中越地震復興支援 チャリティーコンサートを終えて

1996年秋に阪神大震災の被災地に義捐金を寄付するために、当時現役だったベルリン・フィルのチェリスト、ヴァインスハイマー氏が「ベルリン・フィル12人のチェリストたち」を引き連れて神戸にやってきました。そのチャリティーコンサートの後、同氏は12人のチェリストたちとともに私が生業としています神戸三宮の串揚げ料理店にやって来ました。ひとしきり料理を満喫し、彼一人が店に残り、私と運命の出会いの1ページを作ることになりました。彼は92年7月にポツダムで341人のチェロだけのコンサートをオーガナイズし、当時のギネスにも載りました。そのコンサートが余りにも素晴らしいので、それを今度は東京で1000人の規模でやりたい、ついでには力になって欲しい、と初対面の私にたまたまかけました。彼には東京に30年前から教えている日本人の愛弟子がいましたが、その方に申し出ることもなく、初対面の私に依頼したのでした。それは彼の養母で96年当時88歳だったスザンナさんと私がとっても親しかったことからでした。

当時、神戸で串揚げ料理店をやって17年、阪神大震災の影響で9年には約1年間、店の営業もできず、W氏がやってきた頃でも神戸にはほとんど人々は戻っていませんでした。

「長年神戸で仕事をさせていただいた私が「神戸市民の一人」として何かできることはないか」との思いで、W氏が東京での開催を固執していたコンサートを、神戸でやればいろんな人々が神戸を振り向いてくれるのでは、との一念で私は一肌、二肌脱いで尽力することを約束しました。

こうやって「1000人のチェロ・コンサート」が阪神大震災の被災地の復興支援を大きな目的としてスタートしました。

W氏との知己関係で当時ご健在だった高田宮憲仁親王殿下が名誉総裁を務めてくださり、さらに二人のお嬢様とともに演奏にも加わってくれました。98年11月29日に初めて1000人のチェロの響きが神戸の地で奏でられました。その時に参加して下さったチェリストの多くは、阪神大震災の被災地の方々に何の力にもなれなかったけど、自分がチェロを弾くことで少しでも被災地の方々に勇気づけたり、街が賑わったりで、復興へのほんの小さな一助にでもなれば、との思いの方々がほとんどでした。

コンサートは「感動」の言葉に尽きる、それはそれは素晴らしいものでした。3500人の聴衆も弾いている1000人のチェリストも半分近くが涙しながらの癒しの、尊い、感動のコンサートとなりました。高田宮様もでき上がったCDを何十人にもおまよご友人方にお配りしておられました。参加したチェリストたちも、ただチェロを弾いた普通のコンサートで得る感動とは異質のミッションでこそ体験できるそれに酔いしれたのでした。

このようにして1000人のチェロにはただ単に大勢のチェリストが集まって演奏するイベント的要素より、人々を勇気づけたり鎮魂したりという意味合いがあるのです。

今回、学校が復活し始めた中越に98年と同様に「自分たちのチェロ演奏で被災地の人々を勇気づけよう」と約1000人のチェリスト、そしてチェロは弾かないがボランティアスタッフとして役に立ちたい、

私たちは、あなたたちをけっして忘れてはいません。



といった人々が参集しました。

みんな交通費を個人負担して、2日間のコンサートのために3、4日間を割いて北は札幌から南は鹿児島から駆け参りました。

みんな「志」をもって集まりました。

山古志村民体育館、東山小学校、田麦山小学校、すべての会場でのコンサートは神戸の時とまったく同じ感動を私たち演奏者はいただくことができました。それは人数に左右されるものではありませんでした。

聴きにきてくださった山古志、小千谷、川口町の皆様も会場のおちこちでハンカチを手に聴いてくださり、チェリストの何人かも神戸の時と同じ涙していました。

後日にいただいた参加者の皆様からの感想文にも多くの参加者、聴衆の方々が思いを同じにして震災でなくなった方への哀悼と被災地の復興を願っていることが記されていました。

「最近ではテレビ・新聞でもあまり報道されなくなりましたが、2年経っても道路や家々が復興半ばで、仮設住宅も5000戸以上もあり、大変な思いで被災地の方々が生活しているのを目の当たりにして驚きました」、「こんな私でもチェロを弾くことで少しでも他人に喜んでいただいたことが何よりも嬉しいことでした」このような感想が圧倒的でした。今回の会報誌では参加したメンバーの感想文をできる限り掲載しております。

1000人の尊い志はきつと中越の皆様へ力強い「復興への勇気づけ」をお届けできたものと確信しています。

最後になりましたが、全国各地から参加してくださったいましたチェリスト・ボランティアの方々、中越復興市民会議の皆様、ボランティアスタッフの皆様、山古志村、小千谷、川口町の皆様、皆様の協力でごくこんなに素晴らしい、

感動のコンサートをさせてたことができませんでした。そして、大分で夏の暑い日の商店街で7回にわたる街頭チェロ演奏と募金活動をしてくださった皆様も本当にありがとうございました。岡山の皆様と合わせて、18万8249円を被災地の皆様に寄付させていただきました。

日本全国の人々は決して中越地震の被災地の方々のことを忘れていません。どうか、明るい未来に向かって、笑顔と勇気で立ち向かっていってください。再び、お元気な皆様にお目にかかる日を楽しみにしています。

2006年10月27日

1000人のチェロ・コンサート
NPO国際チェロアンサンブル協会
事務局 松本巧

参加メンバーの 思い、感想

復興支援に駆けつけたチェリストとその応援団の生の声を
演奏したパートごとに集めました。

ここには、音楽が好きで、人が好きで、何よりも集うことで新しい価値を見出した人々の声があります。

PART 1

秋月真一郎 (大分・2回目、その他5回以上)
地元の方々がこんなにもてなしてくれて、大変ありがたいことです。本番直前の練習にもう少し時間がとれるとよかったです。

石川嘉一 (東京・毎回)

私は芥川也寸志先生の指導されている新交響楽団で40年間チェロを弾いていました。先生のポリシーは「音楽はみんなのもの」と主張されています。あるとき「君たちは音楽するときは、いつも楽しそうだね。その情熱はプロ以上かもしれない。そして演奏を聴いてくれる人たちがいたらその喜びは2倍になるだろう。しかし、それで満足してはいけない。その音楽が少しでも社会のために貢献できれば最高の幸せだ」私はその言葉を真摯に受け止めました。

私は今回、中越地震復興チャリティコンサートの話聞いてぜひ参加したい気持ちになりました。かつての長岡と違い、今回、駅ビルの立派さ、近代的に開発された駅前と大手通に驚いてしまった。まさに都だ！ところがバスに乗って山古志村付近に来ると山河野島の風景は以前と同じに見えても途中の崖ぐずれや田島のくず

れ家々の災害の痛ましい傷跡がまだまだ残っていて如何に地震が大きかったのか？その時住民はどんなにつらかったか、そして尊い命をなくした方々……

ともすると都では西歐風の合理主義、個人主義、物質主義の人々が増えていますが山古志村・小千谷・川口町の方々は大きな災難があつたにもかかわらず「精神の安定」「心の豊かさ」と「助け合いの精神」に軍配が上がり、良き時代の日本人を感じました。圧倒的に伝統的なすばらしい日本文明が基本にあります。どうか御地出身の皆さんは美しい故郷に戻って幸せな人間生活を考えてください。美しい山河を守って新鮮な空気と天高い青空、きれいな夕日が待っています。

上田聖子 (福岡・4、5回目)

現地に来る前に、チャリティとは、善意とは？ということについて考えてみました。被災した方々にとって、一番欲しいものは何なんだろう？一番必要なものは何だろうか？正直に言ってしまうと、新潟の地は遠いし、お金もかかる。チェロの運搬もリスクが高い。いくらのお金を送るだけの方が、当地の方々にも喜ばれるのではなからうか？頭の中ではそんな

思いが大半でした。しかし実際に現地へ来てみると……そこには、あたりまえに生活できることの大切さを知っている人たちがいて、自分たちの故郷に、人の足が通うことを願っている人たちがいて、文字通り「人はパンのみで生きるにあらず」。人は人によって生きていることを実感として得ることができました。それはまさに「1000チェロ」の精神でもあったのだと認識を新たに、単純にお金さえあればと考えていた自分が恥ずかしくなりました。

2日間の間に3公演。駆け抜けるように演奏会を終えて、そのあとに私の胸に残ったのは「人が通って来てこそ、復興は進んでいくのかな」という思いでした。家が建つてもそこに人が住まなければ、街が整ってもそこに人が通って来なければ、本当の意味の復興ではないのかも知れません。

山古志村では今年取れた新米のおにぎりやたくさんのお菓子をいただき、東山小学校では大地の怒りのような地震に泣かされたはずなのに「大地讃頌」で大地を讃え、田麦山小学校では「はるかなるふるさと田麦山」でふるさとを思う子どもたちの歌声に心を洗われました。現地の方々の全員と言葉を交わすことはできませんでした。心を通い合っ瞬間の中でした！



という、言葉では言い表せない感動を味わうことができた。それこそお金で買うこととはできない、大切なものだったので。

澤田薫 (奈良・3回目)

本当にいい方たちでした。テレビでも、たくさん被災者の方の声や姿は見ましたが、実際にお話をして、その気持ちがいかに伝わってきた。テレビで見て知っていること、実際に自分が会って話すと、深さが全然違うことを実感しました。私たちの音も、目の前で奏すること、皆さんの深い所に届いていけばよいなと思います。練習と本番が大違いでした。ほとんど初めてお会いする方ばかり、今会ったばかりで、練習の始めは「大丈夫？」状態。最後の曲なんか、時間が足りなくて…。それが本番はもう仲間ですよ。すごい集中力！でした。

寺田雅美 (千葉・4回目)

年齢、性別、出身地、職業などまったく違う出演者たちが、スタッフ、現地の人々を含めみんなで同じ時間を過ごし(特に懇親会)、音楽を奏でていたこと。地元の方のお話を聞くことができたのがとてもよかったです。弾いて終わるだけでなく、より被災地の方々に近づくことができ、演奏の意味も深まったと思う。

花房克磨 (千葉・6回目)

地元の人との交流会で手作りの料理が味わえたこと。合わせの練習時間不足のため、個人練習を皆それぞれにがんばってきたと思った。2、4番の、ここが自分のメロディ(出番)というのをハッキリと皆が認識できれば、バランス的にずっとよくなったと思う。

細井唯 (神奈川・2回目)

ボランティアで来ている地元の被災者の方は、地震により家が全壊し、今もなお仮設住宅で生活している方が、明るく元気に、我々チェリストに豚汁やおにぎりを配る姿は、とても被災者に見えず、こういう方々がいたからこそ、私たちが中越地震チャリティーコンサートをするこ

富原政貴 (岐阜・8回目)

全国から、この趣旨で集まれた皆さんの気持ちが一つになっていたと思います。わずかな時間の練習にもかかわらず、集中力ででき上がったこと、元気がもたらされたこと、楽しさを聞いたりして、改めてこの活動の意味を感じました。神戸から始まったあの精神をずっと持ち続けたいです。

宮崎比呂志 (群馬・7回目)

2年前のその時、私は高崎線の車中にいました。今回の演奏会でコンサートマスターをつとめた佐久間先生の主宰するチェロアンサンブルの練習を終えての帰り道、あと30分もすれば高崎だとなっていたら列車が突然止まって、地震があったので停止したとの放送、長い臨時停車と徐行運転を繰り返しながら4時間ほどかかっていたこともあって、胸騒ぎはしながらも、そのまま寝てしまいました。

翌朝、テレビのニュースを見て、予想以上に大変なことになっていることにショックを受けたのですが、それから1ヵ月ほどは、隣県でもあるため、こちらでも何度か余震で揺れたこともあり、さぞかし地元の方々は不安な気持ちであられるだろうと、心配しておりました。あれから2年、2年もたったのか、2年しかたっていないのか、何とも言いがたい気持ちはするのですが、世界でもトップクラスの「豊かな」国なんだから、復興に向けて、もう少し「優しい政治」ができないものかと…。

PART 2

石渡日出男 (神奈川・9回目)

5年前の夏、洞爺湖文化センターでの有珠山復興チャリティー「22人のチェロコンサート」に参加しました。このたび、また「中越地震復興チャリティーコンサート」に参加する機会を得て、被災地の方々に多少なりとも元気づけることができたのではないかと思います。

初日、山古志体育館での演奏会の後、隣接の会場で催された宴は地元の方々を交えて楽しいものでした。長島元山古志村長の復興の支えは「心」であるとお話しに感銘を受けました。2日目、小千谷市東山小では開牛の牛に迎えられ、その立派な体？に見とれてしまいました。チェロ演奏に先立って小千谷の懇話合唱団OSCの合唱が2曲披露されました。その間の1曲「涙そうそう」にはチェロで伴奏したかったのが仲間内からあがりまして、合唱指揮の古田頭氏は元々オペラ畑の出身で、5年前ほど前に私の所属する交響楽団を率いてオーケストラ指揮デビューされた方なので、お互い奇遇に驚きました。続いて川口町田山小での演奏会では、チェロ演奏終了後に児童による「はるかなるふるさと田舎山」斉唱の返礼があり、大変嬉しく聴かせて貰いました。

後日、地元新潟から唯一参加したチェロ友の角谷氏から送られてきた新聞切り抜きコピーで虫亀の長島さん・東竹沢の関さんの感想や、小千谷の関門さんの投書を読み、地元の皆様喜んでいただけたのを確信しました。完全復興の

畔には、皆で一緒に「歌と弦の合奏」でお祝いできた良いなと思っています。

伊勢英子 (東京・3回目)

神戸以外で参加したのは初めてでした。山古志方面は、被災直後から気になりながらも行けず、今年5月、初めて様子を見に行ってきました。激しい地殻変動、大地ごと破壊され、その大地に仕事や生活の基盤のある地域だったのだから、再建、復興は予想以上に大変な思いでした。「ふるさと」に唱和する人たちが、雨の中、秋桜の花枝を採集する人たちが、美しい声の合唱団、田麦小の子どもたちのやさしい声。見える形、見えない形で私たち(チェロの100人)はつながっているなあと感じました。被災地へはこれからも足を運び、個人的にもつながりをたくしていかれたらと思います。

今泉洋一 (神奈川・3回目)

被災地の様子を目の当たりにして、まだまだ復興に時間が必要な印象をもちました。中越の皆様のご苦労の大きさを思いました。山越では養鯉場が本場に多くあり、歴史の深さも同じ、養ひ元通りになって欲しいと思いました。コンサート準備、打ち上げの会など、親切な対応にも感謝しました。選曲も今までにない趣向の曲も入っていて、楽しく演奏できました。小千谷混声合唱団の皆様がコーラスも大変印象に残る素晴らしい演奏でした。東山小学校でのコスモスの花は、お花畑の中で演奏しているような気分になりました。

加藤美千代 (千葉・2回目)

音源CDによって初めての曲を正確な拍、インテンポで練習できたこと、ありがとうございました。「レイクサイド」で思いを伝えたい、「鉄腕アトム」で10万馬力でがんばろうという気持ちで弾きました。長島議員も仮設住宅にお住まいのこと、いろいろ地震以来の努力はまず心がないとできることできなかったことがわかりました。川のはのガケ崩れの跡が見え、道路に頼る地区が孤立してきただ変だつたらうと、打ち上げの挨拶にも聴いた人、弾いた方面方で元気をもらったと感じました。合唱の歌声を聴かせていただけて、いつ、どんな時にも、音楽は素晴らしいな、という思いがしました。長岡市の山古志支所の建物には、メッセージが掲げられていますね。

誓い 私たちは山古志で生きます。

挑戦 愛するふるさとを再生します。そんなあなた方の気概は本当に尊く、人の強さを感じることができます。子どもたちも元気に、よく遊ぶよき字んでください。私にとっても大切な思い出になりました。義援金を準備

なきった方々、敬服します。

康倫明 (大阪・7回目)

山古志村の風景

曾木新六 (鹿児島・51回目)

最初に感心したのは、話をする誰にも、苦しさや暗さがないというより、聞き手の私などよりむしろ明るいことでした。話をお聞きするうちに、それは絶望の淵から確かなものを掴んで立ち上がったという自信の表われのように思えてきました。この環境を克服して育つ子どもたちには、世間で毎日のように報道されているいじめとか非行は決してないだろう、成長したら立派な社会人になるだろう、と将来の姿まで、思い浮かべました。もっと別な表現をするならば、社会や何かに矛盾を感じるものがあつたら、家族でも、学校でも自治体でもこの地を訪ねたら良い。生きるのに、共同生活するのに、真に大切なものは何かに気づくたろうとも思いました。

田原ゆかり (福岡・2回目)

地元の方々、とても前向きに生活を送るために今回のコンサートが開かれたのだということを感じられました。いつも思うのですが、出向いていった私たちの逆にな元気をもらったということ。チェロをアマチュアで続けることが実生活で易くない日々、先を迷うことも多々あるわけですが、こうして少しでも元気をもらって、元気を弾かせてもらって、その先に必ず喜びが待っているわけですから、この個人的な喜びが、様々な分野に影響を及ぼし、少しでも社会貢献できれば、細々とでも続ける意味があるというものだなと思います。今後とも体がかんうちは続けていこうと思えました。

千葉栄夫 (東京・第2回以後毎回)

地元の皆様温かい受け入れ態勢

千葉和郎 (静岡・6回目)

当日一回だけの練習でしたが、素晴らしいコンサートができたと思います。選曲や、その説



明も素晴らしく、演奏中は、私たちの思いが通じ、会場の皆さんとの一体感を実感しながら弾くという貴重な体験をしました。打ち上げでは地元の方と交流でき、その時の山古志の地酒、漬物、おにぎりの格別な味は忘れられませんが、いただいた魚沼産こしひかり新米と多くの思い出を土産に帰途に着きました。

照井紀子(秋田・3回目)

地元の方の話を聞いたこと。私自身は、これまで災害とは縁がない暮らしをしてきていたのですが、実際に被災されても、力強く生活している方々の話を聞いたことで、勇気づけられたような気持ちになった。私の方が、勇気づけられたり、おだやかな気持ちになれた。

中西公一(東京・3回目)

TVや新聞などで被災地の状況が取り上げられるたびに、自然強い関心をもってこうした報道に接することになりました。神戸でも感じたことですが、被災地から離れて住んでいると、そこで起こったことがなかなか実感できない、ですがごく短時間でも自分で実際に現地を訪れ、また人々に直接接すると、ようやく事態の深刻さ、復興の難しさなど、物ごとの理解のための端緒が見えてくる、そしてその後は、報道機関などを通じて伝えられる事柄がより身近なものとして感じられる、ように思います。そうした意味で、今回のコンサートへの参加は、私自身にとつて大層意義深く、いつまでも心に残る貴重で得がたい体験となりました。

社会人となった後、初めて楽器というものに手を触れてからほぼ35年、この間ほとんど週末だけチェロを弾くアマチュアとして過ごしてまいりました。こうした1000人のチェロコンサートのような機会は、まず何よりアンサンブルに参加すること自体の楽しみに加えて自分自身の勉強、励みになり、その上、自分が好きなことで、人様にも喜んでいただけるとすれば、これに優る幸せはなく、チェロを続けてきて良かった、そして今回のコンサートに参加して良かった、と心底から充足感に浸っております。

藤井尚史(大阪・4回目)

①準備(1日目)・・・こんな大人数を順調に迎えてもらった山古志村の皆さんに感謝。②打ち上げ・・・山古志村の田中代表の話+苦労話+再生の話にこちらが元気をもらった。長島(村長)：私の中では衆院議員(ご自身)の「苦労」住民の姿(心)などの話に感激した。「音楽にはやはり(力)人を救う(チカラ)があることを再確認できたし、こちらこそ感激をいたした。③来てよかった！キヨリは遠かったけれど心は近かった。

増川誠(山形・最初からすべて)

①被災地復興を見ながら到着したこと。②実行委員、行政など関係者の応対が素晴らしいこと。③会場(体育館)のマイク音響が不明瞭で話す内容は聞きとれなかった。④その他の本番については、素晴らしいでよ。⑤打ち上げは、まったく想像以上でした。料理の内容、スピーチ。共通の場、演奏をしているという全体意識と個人認識を理解することができました。⑥スタッフ(現地)とのほつきりした交流のきっかけをもっと作るべきでした。帰って来た住民そのものの姿と接したかったのですが...

都も子(東京・5回目)

山古志での終演後の山古志村長の長島様のご挨拶の言葉や、実行委員長の田中さんのお話の心にしみました。実際に体験した方のお話は重みがあります。

山崎篤(岩手・3回目)

地元の方々に心からなしていただいていたこと。特に交流会で皆さんの話が聞けたことは強く印象に残っています。

PART 3

子安康子(東京・2回目)

未だに大きな被害に苦しめられている山古志村ですが、何事もなかったかのように静かで、平和な様子に印象的でした。私たちの方が見守られているような温かな雰囲気の中で、互いの復興への思いがチェロの音とともに一つになったような気がしたのは私だけだったのでしょうか。バランスのよい選曲でどの曲も素晴らしいかと思えます。楽譜を手にしたのがかなり迫った時期でしたので、練習が間に合うか不安だったのですが、CD、合同練習が行なわれたことで落ち着いて本番を迎えられました。

高木麻里(愛知・4回目)

打ち上げの時に、山古志の方々とお話していただくことが一番印象深かったです。あるお母さんは、地震が起きて揺れていた間、お子さんを抱きしめ、「口では「大丈夫よ」といいつつ、心の中は死ぬならみんな一緒に死んでほしい、というです。でも、今は生きていられただけです。お話を聞き、演奏会場への道中、復旧作業中の現場を見た後だったので、とてもリアルでした。この話を自分の周りの人に伝えたいです。いつ東海地震がきてもおかしくないです。

高橋好子(岩手・3回目)

チェロアンサンブルが好きで集まったら、山古志の皆さんに感謝の言葉をいただきました。こんなところまで来て、手弁当で、自分たちを励ましてくれるなんて、ありがたいですし、素晴らしいことだというお話を聞いたのですが、むしろ、そんなことまで言っていたら、すまないような、そして自分の行動ややっていることが、その表現の仕方によって、それほどまでに人に勇気を与えるものなのだとということがわかりました。この企画に参加できたからこそ、気づけたことです。それに、現地にきて、現地の方々と直接話せたことによって、山古志の皆さんが、実際にどんな気持ちで毎日を過ごしているかが実感できました。被災を機に、ふるさとへの思いがわかったこと、全国からいろいろな形で励ましてもらうことによって、ふるさとを復興させようという気持ちが強くなり、ふるさとを基点にがんばろうと思えたこと、被災の苦勞を積み重ねるうちに被災前は言えなかった「ありがとう」の言葉が言えるようになったこと、今やつと音楽を聴いていいなあと思えるようになったこと、短い時間だったけれども、マスメディアでは伝えられなくなった山古志の皆さんのリアルタイムの気持ちが実感でき、自分もがんばらなければと思いました。

立石節子(神奈川・3回目)

被災地の姿はまだ痛々しく、災害のすごさを感じました。現地の方々と話して励ましていたつもりが、私の方が励まされてしまいましたが、私が日常、人間関係に悩んでいたことなど、ちっぽけなものだと、元気をいただきました。「ありがとう」。コンサートに参加してよかったです。

谷尻弥生(東京・2回目)

東京での練習、CDと短時間での練習でしたが、お客様も大勢来ていただき、感動した演奏会でした。打ち上げでは、地酒「山古志」、ぜんまいなどをおいしくいただき、地元の方とも盛り上がりました。遠方の柏崎近くで避難生活をされている方は、家の日処がまだ立っていないと苦勞されている様子でした。でも今日の演奏に励まされ元気をもらったと、うれしいお言葉をいただきました。弾き手も聴き手も感動的なコンサートだったと思います。ふるさととは本当にいいですね。

中村幸太郎(岡山・9回目)

「やはり新潟は遠かった」というのが偽らざる感想ですが、今回は素晴らしい出会いと再会があり、それに加えて地元の方の歓迎と温かいおもてなしがあり、本当に楽しいチャリティーコンサートでした。今回、笠岡から初めてボランティア参加した猪木孝夫さんが、往復のクルマ

の運転をはじめ、参加者のお世話や会場での写真撮影など八面六臂の大活躍で、今後の笠岡でのチェロアンサンブルのみならず、NPO国際チェロアンサンブル協会の行事においても非常に心強い戦力になることが実証されたことが、何より嬉しいことでした。今度は、どこで皆さんと再会できるのでしょうか。

馬場弥生(神奈川・3回目)

演奏後、足を運んでくれたお客様の笑顔が見えて、自分のほうがジンと来てしまいました。地元の方の声を、自分の耳で直接聞くことができて、はじめて、被災した方々の思いを実感できたというか、貴重な経験でした。演奏させていたたくも自分にとっては喜びですが、たくさんの方のお力を借りて、実現したことに、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

古館亜由子(東京・2回目)

予想外ほど熱い歓迎を受け、大きな拍手をもらいました。これは、予想していたよりもこの人たちが今まで苦しんだのだということの現れかと思いました。喜んでもらえたように本当に嬉しいです。

松井敏明(京都・4回目)

コンサートを聴きにきてくださった方々の笑顔が印象的でした。山古志でのコンサートの際は、観客席が3階であったため、皆さんの様子を見ることができなかったのですが、東山小学校なら田屋山小学校での演奏終了後に、皆さん本当に満足そうな笑顔をしておいででした。何か、こちらがパワーをもらったような気がします。「レクイエム」を演奏した際には、ハンカチで目頭を押さえておられる方もおられ、胸が締め付けられる思いがしました。また、チェロ弾きの心意気にはいつも感心させられます。皆さん本当によく集まるなと、チェロを弾くことの楽しさと音楽の素晴らしさをあらためて認識しました。

森加代(東京・2回目)

まだ復興が完全ではない山古志村で、雨天にもかかわらず、多くの方がコンサートを聴きに集まってくださったことです。とても静かに聴いてくださり、たくさん拍手をいただいた時には、言葉に言い尽くせない感動がありました。チャリティーコンサートとしてのイメージが本番まではなかなか像を結ばなかったのですが、やはり現地へ行くことによって肌で感じられるものがたくさんありました。

矢野佳子(東京・2回目)

まだまだ、被災は続いているのだとつくづく



く感じました。地震発生時のまま大きな岩が斜面にあって山崩れが起きている所があった。特に、お母さんと娘さんが亡くなった道路が今もなお地震のすさまじさを表している辛かったです。まだまだ仮設住宅に住んでいたらやる方もたくさんいらっしゃいます。もうすぐ3度目の冬、私の親戚も近くの町に居るので雪や寒さのことはよくわかります。仮設住宅にお住まいの皆様が心配です。

その様な中で、山古志の皆様が暖かいおもてなし、東山や田麦山の皆様が準備して下さった手作りの会場や歌、そして闘牛が大変感動的でした。闘牛、とてもかっこよかったです。

今回のコンサートは仕事もありますし、迷ったのですが、山古志に私の勤め先である浅草が以前お世話になったこと、また親戚が近くの津南町や長野県栄村に居るという縁を感じて参加させていただきました。参加させて頂いて本当に良かった。被災地の姿を拝見して、まさに白眉は一見に如かずでした。

笠雅子 (福岡・2回目)

被災された方々と直接お会いし、お話をたくさん伺えたことです。我々が想像もできないほど大変な経験をされ、今もがんばつていらっしゃると思いますが、地震の事実を受け止め、その経験を無駄にせず、そこから学ぶことや得たものも大きいとおっしゃっていました。演奏後、「力をもらえた」「前に進めそう気がした」「ふるさとで山古志の四季が目に浮かんだ」などとおっしゃっていました。涙を流していらっしゃる方がいたこと、山古志の方々の姿勢、感謝の気持ち、生きる力にただただ感動し、私自身が力をいただきました。ぜひまたこちらへ来て皆様とお会いしたいです。

PART 4

安西吉二郎 (福島・1回目)

雨は降っていましたが、ご当地は我々が演奏した文字どおりの「山は青き」「水は清き」のふるさとに変わりありませんでした。このような素晴らしい景勝の地に神様はなんという恵ぶごけをしたものかと、しばし神様を恨みました。被災直後、隣県ということもあり個人的にさやかな支援をさせていただきましたが、今回演奏活動という形で皆様とお目にかかるとは思ってもいませんでした。

川口町での3回目のコンサートが終わり、小学生の合唱を聞いておりました。始めは、こんな長い歌をよく覚えたなあなどと漠然と聞いておりましたが、そのうちなんと涙が出てまいりました。聴いているうちに押さえきれなくなりました。素晴らしい合唱、本当にあり

がとう。そして、この子たちには将来幸せになつてほしい。いや、幸せにならなければならぬ。絶対になるべきなんだ! と思いました。帰途、車で長岡の町を去るとき、もう一度思いました。被災されたすべての人々が幸せになりますように。

石井陽子 (兵庫・?)

他のチェリストの方々との交流。初めて会ったのに、チェロという共通点から、皆さんとすぐにお話できて、話も弾みました。そしてチェリストはお酒好きの方が多そうですね。

井上貴美子 (兵庫・2回目)

第3回10000人のチェロコンサートに初めて参加させていただいて、とても楽しかったです。チェロだけのアンサンブルも良いなと思つたので、新潟で開催されると知った時、迷わず参加を決意しました。今回は山古志の地震に対する激励の意味もあるということで、何か勇気づけができた良いなと思つました。交流会では、前回参加した時に顔見知りとなつた方と再会したりと、嬉しい出会いや、地域の方々のお気遣いが大変嬉しく思っています。励みになってくるはずなのでこれからのかなと思つておりました。曲については、「ビートルズ」「ペルアミ」、日本の曲メロディが私にとっては初挑戦でしたが、4パートで伴奏隊とはいえず、とても表現するのが難しいと思つました。特に「パッサカリア」の *Opus 37* and *Vol. 2* の違いをどうしようかと悩みました。『ペルアミ』はオシヤレでステキな曲。カフェとか休日の午後のようなイメージがあります。また、このような素敵な曲を弾く機会が欲しいです。

上村恵美 (福岡・2回目)

飛行機にチェロを乗せるのは初めてだったので不安もありましたが、ちよつとした修学旅行気分でも楽しく参加しました。一番印象的だったのは、演奏を聴きに来てくださった方に喜んでもらえたことです。そして私自身も感動をたくさん貰いました。参加してよかった! ちょうど新米の季節だったので、ご飯がとってもおいしかったです。日本酒も、新潟、いいですねえ!

門脇史穂 (愛知・2回目)

コンサートからもう1ヵ月近く。早いものです。お土産にいただいたコシヒカリの新米が、実はまだそのまま置いてあります。もったいなくて食べられずにいます。コンサートの打ち上げで、豚汁をよく食べてくださった方が一生きているだけで幸せなこととお話してくださいました。崖崩れ跡の山肌やたさんの復旧作業の生々しい場所を、会場への移動の車中からた

くさん見ていただけに、そのお話が深く心に残っています。会場に張られた「ありがとう」という言葉を見て、そばにいたチェロの方が「こちらこそありがとうです」とつぶやいていたり、地元の方が歌を歌ってくださったときに聴いているチェロの方が涙ぐんでいたり。自分自身の気持ちだけでなく、周りの方たちそれぞれに感じるころがあったのだなあと強く感じました。

上妻陽子 (福岡・2回目)

被災された地域の方々、それを支えられた方々、なんとか命を救いたいと懸命に活動なさつた方々、いろんな姿を聞くことができました。人間とは、こんなにも一つになれるのだ、と話を聞いて感動しました。山古志村での小さな心の旅の会長さん、村長さんの挨拶を聞きまして、自分のことだけでなく、みんなのために何ができるか、と考え動いた方々、今回、印象に残っているのは、人を助けようとする心、コンサートの成功を支え、人に喜んでもらうことが心で触れられたことです。

空戸伸子 (広島・5回目)

10月7・8日のことは、私にとって非常に心に残る経験でした。まず、中越地震の被害の大きさはテレビ、新聞などで何度も見聞きしていましたが、やはり実際に目の当たりにして改めて衝撃を受けました。地肌が丸出しのままの山々、建設中の家々、何棟も立ち並んだ仮設住宅、整然と、まるでずっと以前から存在しているかのよう、当たり前のように建ち並んだ仮設住宅、その前で私たちのバスに向けて手を振ってくれている子どもたちの姿。いいえ、あの地震が無ければこのような情景はないはず。不自由な生活を今も送っておられる地元の方たちにはチェロを演奏する私たちの姿は傲慢に映るのでは? と、私は少し心配していました。でもそれは大きな間違いでした。そのように考える私の方こそ小さな貧しい心持ち主でした。山古志、小千谷、川口のどの土地でも心から歓迎してくださいました。涙を浮かべて演奏に耳を傾けてくださいました。ありがとう! と手を差し伸べてくださいました。

私の方こそ「ありがとう!」と言いたい! まだまだ復興途上ですが、皆さんのまなざしはますます、未来を見つめています。表情は生き生きとしています。大きな悲しみや苦しみを経験されてきたのにそれに飲み込まれることなく輝いています。故郷への思いがそうさせることなのだと感じました。自然がいっぱい、やさしい人たちが、本当に素晴らしい土地ですね!

山古志の松井さん! お元気ですか? 闘牛の結果はいかがでした? DVDで闘牛は神事なのだとなりました。自分の牛だけでなく相手

生活ステージ 発見プログラム

Prima Life
プリマライフ

ふだんの暮らしも、特別な日も、あなたが主役。
フェリシモのウェブプログラム「プリマライフ」では、この秋、1000人チェロコンサートをはじめ、中越でのコンサートの様子などブログ形式で紹介しています。詳しくは、プリマライフのカルチャーポットをご覧ください。

秋の夜長はカルチャーミ味!
カルチャーポット
Culture Pot
www.prima-life.jp/culture/

FELISSIMO

復興支援のための
募金コンサート



の牛を氣遣い、その買主をも氣遣うやさしい行事なんです。

たった2日間でしたが、もう一つ私の故郷ができたようにさえ感じています。また行かせていただいていた方がいいですか？ これから厳しい冬を迎えますね。どうぞ皆さん、お体に気を付けてください！故郷を守るのにはそこに暮らす故郷を思う地元の方々の思いがあります。素晴らしい土地とやさしい人々にエールを送ります！

柴田 多嘉子 (兵庫・2回目)

神戸の地震で家がつぶれました。60年前には空襲で家が全焼しました。それは大変な体験でした。住むところ、着るもの、食べ物、何もありません。それが日本全国。その上、集中力をなくしてしまいました。けれども今と違って、誰もそんなことには気をとめない、親の庇護のもと生きていくだけで、幸せ、というものでした。だから今、強くなっています。面白くないことがあっても、いいことが何もなくても、今の平和日本に生かされていること、それだけで幸せを感じる事ができます。原爆が神戸に落ちていたらと、そのときから、生きていくこと、生活の基礎、土地を奪われた方の復讐を祈ります。東山小学校の3人をはじめ、犠牲になられた方のご冥福を祈ります。崖崩れから生還した優太君が救急隊の救命士になる！、とのこと。世のため人のために、立派な人生を、強く生きてください。心より祈り、期待しています。

新巳喜勇 (神奈川・3回目)

銀婚式の記念に、夫婦で参加しました。ヴァイオリン弾きなのに、チェロアンサンブルの響きと社会貢献できる場に行かれる喜びにはまっています。長島元村長は、地震以来、お酒を断っているそうです。頭が下がります。

鈴木孝道 (大阪・毎回)

有意義に終始できたのは大変うれしです。1回の練習でまとまるのは素晴らしい。被災地の姿が良く分からなかった(説明がないため)。打ち上げのおにぎりは抜群。交流時、名札があればよかった。

関智史 (埼玉・2回目)

全体練習が当日の約2時間のみというのは、結構不安が残りました。しかしCD音源を送っていただいたので、イメージがつかめ、とても役に立ちました。また、地元の方たちやボランティアで駆けつけてくれた方との懇親会はすごく貴重な場だったと思います。「演奏」という形以外に直接、生の声を聞くことができるので、自分にとっても「がんばろう！」という元気を

いただきました。

高木佐智子 (大阪・3回目)

チェロを通じて、「その地へ足を運ぶ」ことができてもよかったです。東京、神戸が多いのかと思いきや、全国から平均的に集まっています。まさに「日本中から手弁当で集まった」小学生の時からプラスチックで人に聴かせる演奏はすつとしてきましたが、「この人たちのために弾く」という機会は初めて。「ふるさと」や「レクイエム」など、各々の人たちの心に響かぶであろう気持ちと同じように感じながら演奏することは、「好きな曲を気持ちよく弾く」というだけでは、特別な気持ちで動いた演奏になりました。「ふるさと」を演奏するときは、聴いてくださっている方々の頭に流れる風景を想像しながら、みなさんの気持ちにチューニングして演奏していました。そして、田舎のふるさとがな私に、あざやかに里山の風景が浮かび、同じ文化を共有する遺伝子を感じました。その体験に思わず涙が溢れていました。

高梨桂子 (東京・6回目)

練習時間がなかったわりには、できはよかったです。指揮者の田久保先生の力量で、良い演奏でした。これも、今までの公演・練習の積み重ねで「1000人チェロ」の実力になってきたのでは、と感じました。山古志の村で打ち上げをして交流ができたことは本当の心の支えができて楽しいひとときでした。「苦勞を聞いて心がいたみ、復興を祈るのみです。この「チェロ仲間」の力を定着させて音楽の持つ素晴らしさが全国に響きますようにやっています。

寺田雅子 (東京・1回目)

初参加でしたから、青南小学校での集合練習は、とても勉強になりました。全体の雰囲気もわかり、安心してコンサートに参加できました。被災地の姿は映像でたくさん見えています。改めて現実をまのあたりにしたときのギャップに、改めて「当地の方々との恐怖感と復興へのためまぬ努力を、ひしひしと感じました。まだまだ皆の協力が必要です。私たちのために心のこもったパティーを開き、会場を留意して下さったことに心からの感謝と温かさで地元の人々の力強

さを学ばせていただきました。つたない私の演奏が少しでも皆様の励ましの一助になるなら、これからも練習に励み、がんばり続けます。

戸田初枝 (千葉・2回目)

山古志村に初めて入り、山崩れのすさまじさとともに池がたくさん見え、棚田のきれいな所だと実感しました。「鉄腕アトム」では、観客の大きな手拍子に胸打たれました。交流会でも気さくな人たちが心温まる気配りをしていたので、逆に励まされました。

中野聡美 (新潟・1回目)

印象的だったことは、コンサートに来ていただいたお客様、地元の方々に喜んでいただけました。初参加であり、かつ中越地震を経験した私にとっては、特別な気持ちで、演奏することができたり、感動したりと今までにない素敵な経験になりました。

中原聡子 (佐賀・2回目)

「何かで逆転することがあれば」とコンサートにきました。逆に地元の方々に感謝され、あたたかい気持ちでいたいただき、生きる勇気を教えていただきました。「牛」や「錦鯉」を救出した話を聞いたとき「私たちは伝統を守ったのではなく、それが大きな支えになったのです」と言われました。皆さんの大切な地区が早く復興することを祈っています。

樋口君子 (東京・4回目)

打ち上げに地元の方が少なかったのはさみしかったです。コンサートを聴いてくださった住民の方とも話したかったです。(田表山の方とお話はできましたが)。名札があれば、話しかけやすかったですと思う。山古志の体育館は、音が響いてマイクの音がうまく聴きとれなかった。準備にいろいろ「苦勞があった」と思います。ありがとございました。

萩中由佳子 (富山・2回目)

山古志村へ向かう道路は、整備されつつある、とはいつかにもアチラこちらに山肌が見え、2年前はいつかにも状態だったかと思いが知りました。当日は雨。聴きに来てくださる皆さんの足元はどうだろうかとの心配は、大勢の村の方々の姿を見て、ふっとびました。雨くらいでは負けてはいられませんね。村の皆さんはもって大々自然の力と向き合っています。打ち上げのおから、とてもうれしかったです。打ち上げのおにぎり(新米)はしっかりとにぎってあります。しり食べたいバッチリ！、なのに2つもペロリと食べてしまいました。おいしかったです。

松本英之 (神奈川・2回目)

全国から集まったチェリストは鹿兒島から北海道まで93人。体育館のシートの上に座り込んで、顔まで手を上げて嬉しそうに拍手してくれた方々の表情や、「ふるさと」の演奏にそって涙をぬぐう方々の表情は決して忘れられない。初日は長岡市の山古志村。闘牛と錦鯉で有名な所だ。バス4台で移動した。近づくにつれて、山肌で大規模な地すべりの後があらわに残っていたのに、改めて驚いた。聞けば、まだ半数以上の方が、仮設住宅住まいだ。会場に着いたときに、目に入ったのが庁舎にかかった「山古志で生きる！」という内容の垂れ幕だった。そんな言葉が標語になるほど、厳しい状況ということだ。

演奏が終わって、山古志の方々と交流会を開いていただいた。地元の方のお話を伺うことができた。その方は、新築したばかりの家が水没してしまい、今も仮設住宅に住んでいる。でも、今考えるのは自分の家のことより、村をどうやって復興するかということ、そして新しい場所に集落を作るプランも検討しているという。大きな財産を失ってもそういう心境でいる。その方、大きな心に感動した。かつて、生きる目標を失っていた頃に、希望の証として習い始めたチェロが、こんな形で人の役に立てるとは、つくづくありがたいことだと思った。

二日目の会場も、手作りできれいに装飾されていて、「あがり」と書かれた花で作った歓迎アーチや、手作りの民謡用品を用意してくれたり、準備に相当時間と努力を使っていたことがうかがえた。

東山小学校では3人の児童が、地震で亡くなったそう。それを聞いただけで、隣のチェリストの女性が涙ぐんでいた。「レクイエム」は死んだ方の魂を鎮めるための曲です、と指揮者が解説して、その曲だけは、拍手なしで静かに演奏を終えた。天国に召された方々は、聴きにきてくれたらうか。

田表山小学校の校庭に仮設住宅が立ち並んでいたのは、驚いた。地震の影響はここまで長引くんだ。外の雨音が激しく、演奏がちゃんと聴こえるかと心配したが、指揮者が一曲目の開始のタクトを振り下ろすと同時に、雲間から太陽の光がササと楽譜の上に落ちてきたのには、あまりのタイミングのよさにびっくりしながら、演奏を続けた。天の素敵なおはからいに感謝！住民の方々は、私たちが会場を出るまで、ずっと拍手で送ってくれ、手を振って見送ってくれた。後日、NHKテレビで復興の過程を報道していた。深い爪跡に、私たちの非力さも感じましたが、私たちの音楽で、つかの間でも心が癒されて励みになれたならと願うばかりである。

1000人のチェロ、 中越復興支援チャリティーコンサート に同行して

上野友紀 (兵庫・2回目)

まるで映画のワンシーンを
見ているようでした。最後の会場とな
った田辺小学校は全校生徒41名
の小さな学校。体育館の壁からは
のどかな田舎風景を望むことがで
きます。チェロの音が静かに体育
館に響き始めた時、ほんの数分前
まで降っていた雨がやみ、やわらか
い午後の陽がさしてきました。そ
の光の中をおぼあちゃんが孫を連
れて体育館に向かって歩いていま
す。会場の中を移動すると、チェ
ロを弾く人々とそれを聴く人々の
気持ちが重なった音色として聴こ
えてきて、涙があふれてきました。



●
二日目の会場となった小千谷市
の東山小学校では、コスモスが飾
られていました。また、玄関先で
は1トンの「体を持つ闘牛「清松
り」(上の写真)が迎えられていま

●
「中越地震の被災地の復興支援の
コンサートをやりたい」という松本
さんの思いに、日ごろお付き合い
のあった「中越復興市民会議」に
メールを出したのは春のことです。
市民会議のスタッフの方々は快く
引き受けてくださり、被災地内の3
会場で地域の方々を巻き込んでの
開催を準備してくださいました。
それまでもとんど何もできなかった
私は、当日お手伝いという形で同
行させていたのですが、逆にた
くさんの感動を受け取りました。

●
「うちも全壊で、今、長岡市内の
仮設住宅にいます。もちろん大変
なことも多いけど、こうして若い
方が来て勇気づけてくださるの
はうれしい」「音楽があんなに体に
響くなんてびっくりしました。音が
いいですね。子どもたちも最初は
いやがっていたふうだったのだ
けど、最後はノリノリでした」「う
ちら、音楽はわからないけど、気持
ちはもった。ものじゃない、心なん
だよね」「今日の演奏は刺激されま
した。音楽を聴いていると心の中
に映像が浮かんできました。自分
たちが子どもの頃に見た山古志の
風景が浮かんできたんです。これ
らは山古志で観客の方々から何
つた感想です。

●
三日目の会場となった小千谷市
の東山小学校では、コスモスが飾
られていました。また、玄関先で
は1トンの「体を持つ闘牛「清松
り」(上の写真)が迎えられていま
した。「コスモスは昨日見ました。
本日は1000人チェロにちなんで1000
本飾りかかったのだけど、あんな
の雨でしょう。650本ぐらいになっ
たんですけど、でも、花の数は絶
対に1000を超えていると思います
よ」「折角小千谷まで来ていただ
いたんだから、闘牛も本物を見て
もらわないと」。どの会場もあんな
の雨でした。駐車場で車の整理
など、多くのボランティアも手
伝ってくださいました。北海道
から鹿児島まで全国から被災地
のためにと集まったチェリストたち
と、被災地の方々の心が1つにな
って開催された素晴らしいコンサ
ートでした。

●
今回のコンサートに寄り添うよ
うに参加して、改めて実感したの
は、「チェロ」という楽器を通して
、誰かの役に立てるのだという
ことでした。それが何よりもうれ
しい気づきでした。今回は、私は演
奏者として参加はしなかったの
ですが、ぜひ次回は参加したいと
強く思っています。そして、その
ために、もっともっと練習しなく
ちゃいけないと自分に言い聞か
せています。実は、周りの人が驚
くくらい、中越から戻った私は以
前よりも練習熱心になっています
(笑)。



●
これらの素晴らしい出来事を、いつ
までも忘れず大切に、自分にもでき
ることを探していこうと思いま
す。

●
湯浅順子(岡山・2回目)
聴いてくださる方のための演奏会
というものが、と初めて実感しま
した。拍手も演奏者に対していた
だくというより、お

●
猪木孝夫(岡山・1回目ボランティア)
現地を目的の当りにして、今な
お復興の手助けが必要であるとし
ひしと感じました。被災地の方
々には笑顔で接していただいた
わけですが、今なお心の傷は癒
えていないような気がしました。
一生懸命な復興の努力が痛々し
く思えました。コンサートでは、
地域ボランティアの皆さんが被災
されたのにも関わらず、受け入
れ体制は充実しており、大変感
銘を受けました。チェリストさん
の真剣な演奏と地域のお客さん
の双方での形がマッチしており、

●
山田善子(徳島・2回目)
心豊かに暮らされておられる趣、
遊具でいっぱい、素敵な仮設住宅
の玄関から、手を振って迎えて
くださったお母さんと子どもさん
。仲間を失った悲しみも自然の中
に溶けてしまえ。無垢な瞳で迎
えられた闘牛君と元氣ももりの
のでっかいうち。生命を形にした
ような美味しい山古志のおにぎり、
豚汁、地酒。なんて丹精に作っ
てくださったお昼のお弁当(生ま
れて初めていただいた押豆と野
沢菜の煮付けのなんと美味しい
こと)。お隣も引越して越して、
山間部の方の現実。涙をこらえ
ることができなかった音楽的にも
素晴らしい合唱と、幸せの門の
ようなコスモスのアーチ。コンサ
ートに向かうことができないで
あろう独り暮らしの老人を思
う、チェロ仲間の方のお言葉。ど
こからともなく集まってくる宴会好きの、初めて
出会うチェロ仲間の皆さんとの
不思議な縁。やっぱりチェロだ
！と自慢したくなる音域と兵鳴
の妙、合流地長岡駅前を彩るさ
まざまな色形のケースの壮観。時
々小学校の先生に帰る時がと
つても楽しく、そして、自分の
椅子に置いてくださった3枚の
座席表。

●
山仲輝(神奈川・1回目)
初参加で、知り合いの方も少
なくドキドキしながらの本番とな
りました。最も印象に残ったこ
とは約百台のチェロアンサンブル
もできることながら、その演奏を
聴いてくださった被災者の方々の
様子や終わった後の拍手が、と
ても心に響きました。私は災害に
あつたこともなく、被害にあつた
人々の気持ちを100%理解して
いるとはいえない。でも、今回の
チャリティーコンサートを通して、
お話や交流などから様々なこと
を考えさせられます。そして私に
できることは何なのだろうか。1
000人チェロを続けていくこと
はもう、できること何でもない。
そんな気持ちになりました。そう
いった機会を与えてくださった
協会の方、地元の方々にご感謝
の気持ちで一杯です。

●
渡辺一(秋田・3回目)
もともと演奏参加経験は少
ないのですが、今回は2日間に
3カ所、しかも地域の集会所
的な場所、地域の人たちを目的
にして演奏できたことがかけが
えのない経験でした。

●
山田善重(佐賀・4回目)
九州は佐賀から、遠く新潟(長
岡)の地は初めてでした。地元
の方々の歓迎に大いに喜び、
チェロを弾くことの喜びを一段
と大きくしました。前泊した時
間に合奏の練習ができればよ
かったと思っています。

●
客様の喜びに応じた拍手をもら
える演奏が本来のコンサートのよ
うに思えます。被災でまだ完
全に落ちついていない中で心温
まる歓迎を受け、反対にこちら
が元気づけられました。今日は、
日々の暮らしの中で人を思いや
ることを最優先に過ごしてい
たいと思います。選曲もこの
コンサートにふさわしいもので、
満足して弾くことができました。貴
重な経験ができ、大変楽し
ゆうございました。

●
柳田邦男(東京・3回目)たし
応援参加
川口町での演奏終了、拍手が
終わると、隣りにいた初老のお
ばさんが「ああ、今日は来て
よかった！」と、さらにその隣
りの60歳前後の男性が、「千葉
県」野田市から来たとい
うだけで、よかった。ここに
住みたくなった」と言った。
小千谷でも川口でも、床のシ
ートの上の人たちは椅子の人
たちも無心に耳を傾け、「ふ
るさと」を歌い、「鉄腕アトム」
では手拍子を取り、終わりに
近づくと、顔を笑みながら、
コンサートに溶けていた(山古
志は観客席が二階だったこと
や会館が広かったことから、
いまひとつ溶け合うという雰
囲気にはならなかった)。

●
選曲、長さはベストだったと思
います。川口町の小学生たちが
「はるかなるふるさと」田山
を歌ったのは、とてもよかつた。
一体感と、チェリスト側が心を
動かされたようにみえ、3回
の演奏、会を重ねることに盛
り上がり、アンサンブルも乗
ってきた。その盛り上がり地
元の人にも伝わったでしょう。

自然環境との融和と創造
人と環境に優しいコンクリートづくりを目指す



株式会社 柏木興産

代表取締役 柏木武春

本社 福岡県行橋市中央2丁目11番5号 Tel(0930)23-1472

営業部	生コン工場	二次製品工場
本社営業部 Tel(0930)33-1090	行橋工場 Tel(0930)23-6925	田中工場 Tel(0930)33-4050
北九州 Tel(093)932-7277	苅田工場 Tel(093)434-0188	節丸工場 TEL(0930)33-2808
福岡 Tel(092)481-2555	HP address : http://www.kashiwagi-k.co.jp	
久留米 Tel(0942)33-1456		

ありがとう



提言

『世界平和とチェロアンサンブル』 角谷輝彦(新潟)

阪神大震災の復興支援が契機となって1998年、神戸で国内外から1013人のチェリストが集まり大人数によるアンサンブルが行なわれた。以来、1000人チェロと呼ばれている。

この1000人チェロが震災から2年になろうとしている新潟県中越地震の被災者を励まそうと、「中越地震チャリティーコンサート」が企画され、鹿児島から北海道まで、チェリスト8人が長岡に集まった。それぞれ休暇をやり繰りし、大きな楽器を携え、交通費はもちろん自前である。にわか信じがたいようなことであるが、音楽への熱い思いは参加者全員に共通していた。

公演は、被害の大きかった山古志、小千谷、川口の三カ所で、地元からも温かい歓迎を受け、チェロだけの優しく迫力のある響きは、復興に励む人々から多くの共感をいただいた。それは演奏者にとってもこの上ない充実感となった。また大分と岡山からの参加者は、街頭コンサートで集めた震災支援金を携えて被災地に直接手渡すこともできた。

21世紀に入っても紛争やテロ、戦争、20世紀に繰り返された戦争悲劇の教訓が何一つ生かされていない現実に驚くと同時に慙愧の念に堪えない。その上、独裁国家の核実験など、世界平和は、むしろ後退している観がある。

かつて、カザルスがケネディ大統領に「今こそ平和が大切」と訴えたホワイトハウスコンサート(1961.11.13)は、ちょうどアメリカとソ連(ロシア)の緊張が高まり一触即発の「キューバ危機」にさしかかる時であった。それから10年後、国連平和賞受賞(1971.10.24)でも『鳥の歌』を演奏した。「私の故郷カタルニアでは、鳥たちがピース、ピースと空を飛んでいます」というスピーチとともに大きな感動を呼び、歴史的な演奏となった。

その後、この『鳥の歌』は、バルセロナオリンピックでも用いられ、今や平和の讃歌といった位置づけになったと考える。

また、カザルスはシユバイターとともに核実験に反対、一貫した平和活動の精神を受け継ぎたいものである。音楽の瞬間はやはり平和そのものである。平和とは努力なくして獲得できないものである。音楽は、それを可能にする。

人間が造り上げた物で最悪なものが大量破壊兵器といわれる原子爆弾である。そして、その対極にある最善のものは楽器、中でもチェロであると考える。

チェロは、音域も広く独特の楽器でアンサンブルが可能で、存在感があり視覚的でもある。カザルスの平和活動の遺志を継いで被爆の地、広島から平和のメッセージを世界に向けて発信することに大いなる意義を感じる。世界中のチェリストに参加を呼びかけて1000人とは言わず、大規模に爆心地の平和記念公園で「世界平和チェロアンサンブル」として平和をアピールする。その規模を全世界にテレビ中継すれば、そこに込められたものは必ず伝えられると確信する。

基礎力アップと個性豊かな音の魅力を求める好評シリーズ第2弾。基礎となる重要な奏法と、魅力ある表現法が倉田澄子の的確な解説で手に取るようになります。

チェロ講座 II 「マスタークラス」

Vol.1 92分 具体的なアプローチで表現力をアップ
 ハイドン：チェロ協奏曲第1番/長調 (レガートの弾き方・余韻を残すために・左手のポジション移動・速いVバースーン「弓の発音」「左指の上げ下ろし」・スラースタックカートと右手首の関係) フルッフ：ホル・ニドライ (呼吸と一緒に・たっぷりとした音で歌うために) フォーレ：エレジー (自然な流れで歌う・ティレ、ブッセのイメージでボウイング)

Vol.2 91分 ポイント・ピックアップ・レッスン
 ラロ：チェロ協奏曲 (ヴィブラートの種類と腕の重みの関係・スラースタックカートと右腕の重みの関係・親指と手首の関係) 「音色の豊かさ」と「音符を言葉にして」・音の変化を出すための右指の練習・トリル「各指の独立性」ホッケリーニ：チェロ・ソナタ第6番 (ヴィブラート・裝飾音・ハイポジション・左指関節の練習・フラジオレット) ホエルマン：作品23 (ボウイングと肩の関係・移弦・スピッカート) ホッケリーニ：チェロ協奏曲第9番 (弓のスピードを平均させる練習)



詳細な内容は公式WEBサイトで紹介しています。ぜひご覧ください。なお、商品は代引き便でお届けします。

■お問い合わせ先
(株)CGVちもと画廊
<http://www.cgv.co.jp>
 東京都中央区銀座1-4-6
 紅雀ビル 4F
 tel.03-3561-7653
 fax.03-3561-7645

DVD上下編2枚組カラーステレオ CGVD-1009 定価12600円(税込)

あなたの基礎力を
 格段にアップさせる、
 NEW・DVD。
 確かな力がつきます。